

令和4年度

自己点検・評価報告書

学校法人 MGL学園

高崎動物専門学校

自己点検・評価委員会

令和5年5月29日

1. 学校の現況

学校名 学校法人MGL学園 高崎動物専門学校

所在地 群馬県高崎市岩押町 5-4

設置学科 商業実務専門課程 ペットビジネス学科

文部科学省認定 職業実践専門課程・高等教育の修学新支援制度対象機関

厚生労働省認定 専門職業教育訓練

群馬県指定 愛玩動物看護師養成所（法第 31 条及び法附則第 2 条）

2. 学校の特徴

①群馬県内のペット業界の要望に応じて、群馬県初の動物専門学校として設立

②ペット業界の代表団体である全国ペット協会と連携して、ペット業界が求める人材を育成しようと努力していること

③MGL 学園附属動物高度医療センターを持ち、実践的な実習を行っていること

④学園附属のペットショップを持ち、実践的な実習を行っていること

⑤卒業生のペット業界へ就職する割合が高いこと。卒業生でこの分野の有名人を輩出していること

⑥世界のトッププロが毎年来学し講演等をおこなうので、世界のトップの技術及び人間性に学生が直に触れることができること

⑦獣医師の専門医団体「LIVES」との連携により、質の高い動物看護師教育を行っていること

3. 学校の教育理念・目標

基本精神

「共存共栄」

M i s s i o n (使命)

「業界に必要とされる人材を輩出し、動物業界の発展・繁栄に寄与する」

行動指針

「M」 マナー…礼儀正しさ

「G」 グリット…やり抜く力

「L」 リーダーシップ…思いやり・模範を示す

教育目標

「利他の人」…人の役に立つ人材に

「積極的な人」…自ら考え行動できる人に

「夢を持つ人」…専門性を生かし活躍できる人に

4. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 個人情報保護に対する取り組みの強化
2. 情報セキュリティ管理の徹底
3. 特色ある授業の積極的な展開
4. 教職員採用・育成(FD/SD)計画
5. オープンキャンパス等、学生募集強化策の実施
6. 衛生・安全管理の強化
7. ペット業界との連携による就職支援の強化
8. 教員を派遣した学生インターンシップ研修における動物病院との連携深化
9. Web ポータルを導入した学籍管理マネジメントシステムの構築
10. MGL 学園附属高度動物医療センターの有効活用

5. 評価項目の達成及び取組状況（全教職員が4～1で評価し、その平均値を評価として記載した）

【評価の判定】 適切 4 ほぼ適切 3 やや不適切 2 不適切 1

[1]教育理念・目標

| 評価項目 | 評価 |
|--|-----|
| ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか | 4 |
| ・学校における職業教育の特色は何か | 4 |
| ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 |
| ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 3.9 |
| ・教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3.9 |

(優れた点)

- ・ペット業界の代表団体「全国ペット協会」と産学連携協定を結ぶことで、ペット業界が求める人材を理解できている。またその人材を育成するの教育目標が明確かつ教職員共有ができているため、業界・業種の求める人材育成ができています。
- ・学校の行動指針や理念が明確であり、かつ、学生に対しても周知の場を設けたり、校内に掲示をすることですぐに確認ができるようになっている
- ・時代のニーズを反映したりより質の高い教育を提供するため、教育施設を新しくしたり、積極的教育環境を改善している。
- ・業界・業種のことをよく理解し、高い技術、豊富な知識・経験を持った専門の常勤教員を雇用することで、質の高い教育を実現している。
- ・本学園理事長がペット業界の代表団体「全国ペット協会」において常務理事を務めるため、業界のニーズをいち早く理解し、カリキュラム・教育に反映できている。
- ・愛玩動物看護師国家資格化に伴い学校設備を最新鋭のものに整えるなど、次代に貢献できる人材を育成・輩出する努力をし続けている。
- ・教育目標が明確で具体的でわかりやすく学生に直接指導をする教員だけではなく事務職員なども積極的に学生の教育に参加していて学校全体で教育ができています。
- ・「共存共栄」に基づいて、動物・ペットと人が共生し幸せになれるよう、感染対策についても学内で意識の共有ができています。
- ・二年間の学園生活で豊富な学校飼育犬と共に実践的な授業の中、即戦力となる人材の育成がされている。
- ・高度専門化する動物医療の現状に合わせて、二次診療を学べるMRIの導入や動物高度医療センターの設立し、知識と技術のある専門性の高い動物愛玩看護師の養成を行える。
- ・アドミッションポリシーを定め、育成すべき人材像を学校パンフレット・学生募集要項などに明記し周知している。
- ・学校の理念や目的が明確であり、学生や保護者に対しても周知の場を設けたり、校内に掲示をすることですぐに確認ができるようになっている。
- ・時代のニーズに合わせて教育施設を新しくするなど積極的に教育環境の改善に取り組んでいる。冷暖房完備の施設で気温や天候に左右される事無く授業に取り組む事ができる。
- ・附属動物高度医療センターを開業し、第一線で活躍する獣医師の連携をはかることで業界の求める人材の育成と、国家資格となった愛玩動物看護師の新たな可能性を広げることが可能となった。
- ・現在のペット業界の動きに瞬時に対応し、必要とされる人材を育成できるカリキュラムを組んでいる。
- ・新学科として愛玩動物看護師学科を設け、更に業界のニーズにも応えるべく、愛玩動物看護師を目指しながらトリミング技術も備えた人材育成を行える教育機関である。

(改善を要する点)

・学校全体での教育体制は整ってきているが各教科間での専門性の高い学習内容についての協力体制が整っていないので教務課の連携が必要に思える。

・愛玩動物看護師国家資格化に伴い、動物医療に留まらず、ペット業界全体に対して幅広い視野を持った愛玩動物看護師の育成・排出をしていく必要がある。新しい実習施設や新任教員も加わり、新しい意見を取り入れながら多様な見方のできる愛玩動物看護師の育成を目指していく。

[2] 学校運営

| 評価項目 | 評価 |
|---|-----|
| ・目的等に沿った運営方針が策定されているか | 3.9 |
| ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 3.8 |
| ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明文化されているか、有効に機能しているか | 3.8 |
| ・人事、給与に関する規定等は整備されているか | 3.9 |
| ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 3.9 |
| ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 |
| ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4 |
| ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3.9 |

(優れた点)

・情報共有システムである Web ポータルを導入したことで、出欠管理、情報の共有が学生・教員間でスムーズに行われるようになったり、学生が自己の出欠管理や成績が同システムにて確認できることで、学生の自己管理能力の向上にもつながっている。

・顧問弁護士、税理士、社会保険労務士と第三者機関による労務管理・財務管理の監督・相談窓口が設けられていることで、コンプライアンスに則った学校経営が行われている。

・本校では毎年最新の情報公開を行うことで、誰もが HP 上で学校情報が閲覧できるようになっている。また情報公開は HP のトップページに分かりやすく明示されているため、迷わず閲覧することができる。

・学生や保証人に対してのお知らせを Web ポータルを通じて、いつでも確認ができるようになった。それにより、スムーズに学校からのお知らせを周知することが可能になり、業務も効率化できている。

・組織図が全体に共有されており、指示系統が明確になっている。

・Google ドライブを活用して業務を効率化している。

・学生の出欠席をオンラインにて管理・共有をすることで姉妹校・実習施設で授業を行っていても学生の状況を適切に把握することができている。

・人事、給与に関する規定は細かくされており、職員室に保管されているためいつでも自由に閲覧することが出来る。

(改善を要する点)

・システム化は順次行われているが、業務の効率化に必ずしも反映できていない部分もある。

・授業作りなど、新人教員へのサポート対策の時間を設ける必要がある。

・新人教員育成に関して、新施設設備に合わせたガイドラインの改訂改善を行っている。

(特記事項)

・教員は1名1台タブレットを所持し、オンライン環境を活用できるようになっている。

・オンライン環境の活用においては、個人情報を取り扱うことも多くなるため、状況に応じてアクセス制限やパスワード設定をかけてセキュリティ対策を行っている。

[3] 教育活動

| 評価項目 | 評価 |
|------|----|
|------|----|

| | |
|--|-----|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 3.8 |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 |
| ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 |
| ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 |
| ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 |
| ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 3.8 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | 3.8 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 3.9 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 3.8 |

(優れた点)

- ・日本能率協会による教職員研修を定期的に行っている。
- ・専門診療も行う「さいとう動物病院 富岡医療センター」と教育連携を行うことで、学校教員が病院施設を利用し、実践的な実習が行われている。
- ・豊富な学校動物を飼育し、動物の終生飼養の大切さを学ぶ環境が作られている。また学校動物を使用した実習授業を行うことで、より実践的な授業を行うことができ、結果として国内外で活躍をする卒業生が輩出できている。
- ・積極的に研究授業を実施し、教員の質向上に努めている。
- ・実際にお客様が来店されるペットショップ・しつけ教室、高度動物医療を実践できる附属動物病院実習施設など、実践的な環境のもとで実習授業を行うことで、専門的な技術・知識の習得ができる。
- ・MAXHUB の導入やオンライン環境を整えることで、オペ中の様子や画像診断の様子をリアルタイムで確認することができる。
- ・日本能率協会の専門講師による教職員研修や、個々人にあった研修を実施しており教員の質や、仕事をするうえで必要な知識・技術を学ぶことができている。

- ・年間を通して授業計画をたてスムーズに知識、技術の向上を考えたカリキュラムを作成している。
- ・研究授業や授業評価シートを導入し、教員は授業後に自己の授業を振り返る体制が整っている。
- ・朝の教員の挨拶運動や教員からの積極的な挨拶を行い、学生に対し挨拶の徹底を行っている。
- ・動物の高度医療を実践できる附属の動物高度医療センターをはじめ、実際に営業しているペットショップ実習施設など、実践的な実習授業を行う環境が整っており、専門的な技術・知識の習得ができる。
- ・それぞれの分野で世界的に活躍している講師陣に直接指導いただき、学生の意欲向上することができる。
- ・県内の動物病院との連携により、学生への系統的な研修が行うことができる体制が整っている。
- ・学生だけではなく教職員においても実習施設（MGL 附属動物高度医療センター）がより充実した施設になったことでより効率よい授業に取り組むことができるようになった
- ・最先端の技術を学生に教えるために、実際に現場で活躍している教員から授業を学ぶことができている。
- ・教職員研修は定期的実施し、指導力の育成のための活動が行われている。
- ・群馬県動物愛護センターやペットショップワルツ、さいとう動物病院、LIVES などとの企業連携により学生がより実践的な実習授業を行うことができている。

(改善を要する点)

- ・教職員研修で行ったことを、研修後も一人一人が実践的に行き改善に繋がっているかの振り返りが必要である。

[4]学修成果

| 評価項目 | 評価 |
|--|-----|
| ・就職率の向上が図られているか | 3.9 |
| ・資格取得率の向上が図られているか | 3.8 |
| ・退学率の低減が図られているか | 3.6 |
| ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3.9 |

(優れた点)

- ・学生の状況を教職員間で共有することで、包括的な支援が実現できている。
- ・学生状況の把握や Web ポータルを活用した出欠管理システムにより、休みがち学生などを早期に発見ができる。
- ・退学率の減少に関して教職員全体で問題意識を持つことで、積極的な学生状況把握に努めている。
- ・1年次よりキャリア形成を含めた就職活動支援を行っている。
- ・ペット業界でプロとして働く卒業生による講話会を開催することで、学生の職業理解、職場環境への関心を高め、社会人としての自立やキャリア形成への意欲向上に役立っている。
- ・学内で多くのペット関連大手優良企業による説明会を開催することで、早期より業界や企業理解を深め、より待遇の良い環境でより自分に適した職場の選択ができる。
- ・定期的な面談の実施や面接練習・応募書類の添削などを細やかに行うことで、早期内定率の向上につながっている。
- ・学校で取得した資格が卒業後どのように活かされているのかを卒業生に話してもらった動画を学生に見せている。学生が将来をイメージしやすく、資格取得に意欲的に取り組むことができている。
- ・学生全員へのタブレットの配布や web ポータルの掲示板を利用した授業資料を事前に配布するなどをして学生の学習の効率化をして理解しやすい授業を行っている。

- ・各コース、学習アドバイザーを3～4人体制にし、学生にあった指導いつでも就職のサポートができる体制にすることで早期内定を目指した。
- ・ペット業界の大手企業を中心に数多くの企業による就職説明会を開催し、学生が様々な企業の人事担当者から直接話を聞き情報収集をする機会を設けている。
- ・大手企業に就職した卒業生から講話を聴ける機会を設けている。
- ・就職担当教員だけでなく、学修アドバイザー含め全教職員で常に学生の就職活動状況を共有しているため、学生へ適切な支援を行うことができる。
- ・学修アドバイザー制度により複数の教員でクラスを担当するため、複数の視点から学生の状況を把握する事ができている。また、個人面談を定期的に行うことで学生の悩みを早期に把握し対処する事ができた。
- ・web ポータルを通して保護者からのサポートもあり退学率は減ってる。
- ・資格取得について、卒業生からのメッセージ披露や学生間のピアサポートを行っており資格取得率の向上に活用している
- ・退学率を減らすため、学生の毎月の欠課状況を把握し、ご家庭とも連携を取りながらサポートを行っている。

(改善を要する点)

- ・傾向として高校在籍時に不登校あるいは欠席がちだった学生の退学率が下がりにくい。
- ・学生との懇談、親への連絡等の実践はされているが、必ずしも結果に直結していないため、対応の仕方を常に模索している。
- ・退学者の早期対応や傾向を教職員全体で共有をしているが、学生状況の把握については徹底をしていく必要がある。
- ・欠席者の早期対応の連携と共有を細かく行い退学者の減少につなげる。
- ・愛玩動物看護師の国家資格試験について、全員合格を達成することができなかった。
- ・学修アドバイザー制度により退学率軽減に努めているが、病気療養等の理由で退学した学生が若干名いた。

[5] 学生支援

| 評価項目 | 評価 |
|--|-----|
| ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 3.9 |
| ・学生相談に関する体制は整備されているか | 3.9 |
| ・学生に相談する経済的な支援体制は整備されているか | 4 |
| ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 3.9 |
| ・課外活動に対する支援体制は整備されているか | 3.8 |
| ・学生の生活環境への支援は行われているか | 3.9 |
| ・保護者と適切に連携しているか | 3.9 |
| ・卒業生への支援体制はあるか | 3.7 |
| ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 |
| ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 3.8 |

(優れた点)

- ・学生の就職活動状況を教職員全体で共有することで、多方面から支援が必要な学生へのバックアップ体制がとられている。
- ・学修アドバイザー（教務課）と就職課が連携し、学修に関する相談や学校生活に関する相談、就職の相談や支援などきめ細やかな対応を行っている。
- ・保護者にも保護者用WEBポータルのアカウント登録を促すことで、学生の欠課状況などを共有すること

ができています。

・ハローワークへ無料職業紹介事業の届出を提出しているため、卒業後の就業・再就職の相談にも常時応じている。

・専門実践教育訓練を開講し、対象者を受け入れている。

・専門実践教育訓練の教育訓練給付制度の認定を受けているため、社会人の学費が大幅に軽減できている。

・教育訓練給付制度の対象講座が複数設けられており、社会人の学び直しニーズに対する修学支援の体制が整っている。

・各コースごとに学修アドバイザーが3人体制で常に情報を共有して学生の教育指導から生活指導にまで対応している。

・Webポータルを活用して、学校からのお知らせを保証人に対してスムーズに周知することができている。また、学生の出欠状況も把握することができるようになっている。

・WEBポータルの活用で生徒の健康の情報や状況が迅速に把握できている。

・学修アドバイザーと就職課が連携する事により、学修に関する相談や学校生活の相談、就職活動や卒業後の学生のサポートなどの対応を行っている。

・教育訓練給付金や奨学金のほかにも遠距離サポートなど、経済的な支援が充実している。

・オンラインを活用し、MGL学園内での就職説明会ではペット業界の大手企業様から県内の企業様と多くの企業様に参加していただき、学生の就職の選択肢を広げることができた。

・学生の健康診断結果及び各学生の特記事項に関して教員が把握できるよう管理されている。また追記や対応が必要な場合にも申請が可能な状態になっている。

・体調不良の学生に対する対応方法・指導方法がマニュアル化されている。

・体調不良による欠課が多かった学生に対し、適切な指導対応・不足学習分の課題対応が行われている。

(改善を要する点)

・学生の体のケアに対しては積極的に取り組んでいるが心にケアに関しては学習アドバイザーや学生課によるケアが主だが師による心のケアにも取り組むことが必要になってきていると思える。

[6]教育環境

| 評価項目 | 評価 |
|---|-----|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか | 4 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 3.6 |
| ・防災に対する体制は整備されているか | 3.9 |

(優れた点)

・国家資格化に伴い、高度医療に対応出来る機器やさいとう動物病院との連携授業で、即戦力になれる人材が育成できると思います。

・本校は専修学校設置基準および関連諸法律等が定める要件に適合し、愛玩動物看護師養成校としての基準にも適合している。

・動物の技術・知識を学ぼうと欠かすことができない学校飼育動物、附属ペットショップ実習施設、二次診療を学べる附属動物高度医療センターを完備している。

・毎年防災訓練が行われており、避難経路や不審者への対応などが周知されている。

・施設・設備において「最低限」ではなく「最新鋭」のものを取り入れている。

・動物高度医療センターの完成によってより質の高い実習授業が行える体制が整った。

・実習棟の改修工事中も、他の施設にて設備を整えることで実習を滞りなく行うことができた。

・日本唯一、動物の専門学校でMRI検査機器を完備するなど、最先端動物医療を学べる附属動物高度医療センターを持っており実習授業でも活用している。これにより、高いレベルの技術・知識を持つ愛玩動物看護

師を育成することができる。

・ペット産業に係る複数の教育連携施設（動物病院・ペットショップ等）があり、学生が学内で学んだことを実践できる教育環境が整っている。

・トリミング・看護・トレーニングなど、各分野を学ぶための専用の施設が設けられている。

・年2回の避難訓練を行い、常に災害が起きてでも対応できるようにしている。

・高度動物医療センターや学校付属のペットショップ、室内ドッグランなど冷暖房完備の施設設備が整っており気温や天候に左右されずに学ぶ事が出来る。

・新たな実習施設ができ、高度医療実習だけではなく、電子黒板の導入など講義授業においても自分の意見を述べやすい参加型の授業がやりやすくなった。

・コロナ禍ではあったが、感染状況等熟慮しながら学外の動物愛護センターへの実習を実施し続ける事が出来た。

(改善を要する点)

・コロナ禍で海外研修を断念せざるをえなかった。

(特記事項)

・新型コロナウイルス感染症の蔓延により海外研修が実施できていない。

[7]学生の受け入れ募集

| 評価項目 | 評価 |
|------------------------------|----|
| ・学生募集活動は、適正に行われているか | 4 |
| ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 |
| ・学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

(優れた点)

・来校のオープンキャンパスと並行してオンラインを活用したオープンキャンパスを開催することで、進学希望者や保護者へ広く情報発信できている。

・学生数の多い人気校ということもあり、一人当たりの学費を軽減しても、潤沢な教育予算を確保することができている。

・広報課と教務課が連携をとり学校の教育内容をわかりやすく情報を出していて、それによって希望者が正確に学校の教育内容を理解することができている。

・学生主体のオープンキャンパスでは在学中の学生が伝える事で入学後の想像が明確に伝えられている。

・オープンキャンパスで教職員の個別案内と個別相談をすることでより学校への理解を深めることができた。

・学校パンフレット・学生募集要項だけでなく、ホームページでも情報公開を積極的に行い、就職や資格取得状況等の情報を入学希望者に対しても提示している。

・オンラインを活用したオープンキャンパスやオンラインの個別相談を並行して開催することで、遠方の進学希望者や保護者へも最新の情報発信ができている。

・WEB オープンキャンパスを開催することで、来校に不安がある方でも気軽に参加することができる。

・入学希望者に対して、新型コロナウイルスの感染対策をしっかり行いながら対面でのオープンキャンパスを行えた。

・OCだけでなく、高校訪問を行うなどして積極的に学生募集活動を行っている。

・オープンキャンパスでは新型コロナウイルス対策のため人数制限が行われていたが、逆に1人の参加者に対し教員が1人対応することが出来たため、詳しい説明やきめ細かな対応ができた。

[8]財務

| 評価項目 | 評価 |
|------|----|
|------|----|

| | |
|---------------------------|---|
| ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| ・財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| ・財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

(優れた点)

- ・ホームページで財務情報について適切に公開している。
- ・人気校ということもあり学生募集も安定しているため、財務状況も盤石である。
- ・独立監査人による監査が行われ、その結果もホームページで公開していることから適切に監査が行われている。
- ・会計監査を受けることで学校の財務状況を客観的に見ることができている。
- ・安心して進学できるようホームページで経営状態の情報公開をおこなっており、オープンキャンパスでも説明している。
- ・財務情報は学園のホームページにて適切に公開されている。

[9] 法令等の遵守

| 評価項目 | 評価 |
|--------------------------------|-----|
| ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 3.8 |
| ・自己評価結果を公開しているか | 3.9 |

(優れた点)

- ・本校は専修学校設置基準および関連諸法律等が定める要件に適合し、愛玩動物看護師養成校としての基準にも適合している。
- ・自己評価の実施は毎年行われ、改善点があった場合は改善に向け積極的に取り組んでいる。
- ・自己評価の際は全教職員が評価に取り組み、包括的に評価を行う事ができている。
- ・個人情報保護法に関する情報管理規定を設け、適切に情報管理している。
- ・教育課程編成委員会が職業実践専門課程の認定要件をクリアしていることは勿論、この制度を生かして実際にカリキュラムの編成に反映され、業界・企業が求める人材を育成できる体制がとられている。
- ・個人情報の管理は全職員が徹底していて扉の施錠やパスワードの管理など常に危機感をもって取り組んでいる。
- ・自己評価は教職員により適切に行われ、結果については学園のホームページで公開されている。
- ・独立監査人の監査報告書、経営の状況、財政状態を適正に表示したものをホームページで公開している。
- ・個人情報保護のため、教員が授業で扱うタブレットでの情報閲覧に関しては適切な制限をかけている。
- ・毎年自己評価を実施し、改善点があった場合は改善に向けて積極的に取り組んでいる。

[10] 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 評価 |
|--|-----|
| ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3.7 |
| ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 3.6 |
| ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 3.8 |

(優れた点)

- ・ 専門実践教育訓練を開講し、対象者を受け入れている。
- ・ 地域の獣医師による鍼灸講座への学校飼育動物の貸し出しなど積極的に獣医療向上のための協力を行っている。
- ・ 新設の実習棟に最新 MRI を備えた動物高度医療センターを設置し、二次診療を受け入れて動物医療に貢献している
- ・ コロナ禍前には授業の一環として動物を連れての老人ホーム訪問を行っており、動物をとおして高齢者と学生が交流する機会を設け、たいへん喜ばれていた（現在は休止中だがコロナがさらに落ち着いたところで再開を予定している）
- ・ 動物愛護センターでの保護動物のお世話、ボランティアトリミングなどの実施を行っている。
- ・ 専門実践教育訓練の認定校になっており、社会人入学生を受け入れている。
- ・ 動物高度医療センターにて地域の動物病院に勤める獣医師に対するセミナー・講習会を開催している。
- ・ ピアサポートを導入し、オープンキャンパスや学生間の支援も積極的に行っている。

以上

高崎動物専門学校

令和 4 年度 自己点検・評価委員会

委員長 中井亜沙子 (校長)

委員 山田早矢香 (教務主任)

委員 佐藤 朋未 (教務会)